

地域に根ざした周産期医療の実現に向けて ～現状分析と戦略的改善への取り組み～

田中 大貴

(社会医療法人抱生会丸の内病院 診療部 診療支援課 係長)

医療経営士1級
認定登録番号：
12010025010015

【目的】

当院は長野県松本市に立地する199床のケア・ミックス型病院である。周産期医療を強みとしており、近年の著明な分娩件数の減少により、2023年・24年度は社会医療法人の認可基準である年間分娩件数500件を下回った。松本市の出生数減少等に伴い、当院の分娩件数もピーク時の5割以下にまで低下し、早急な対策の検討が必要となった。

本取り組みは、当院の現状分析と課題の洗い出しを行い、具体的改善策を立案・実施することで持続可能な周産期医療提供体制の構築を目指した事例である。

【実施方法】

2024年1月、法人理事長の指示の下、母子医療センター長を委員長とする「丸の内病院の周産期医療の現状と将来を考える委員会」を設置。医療経営士の観点から事務局として参画した。委員会は理事長、産婦人科長、小児科長、麻酔科長、看護部長、女性病棟師長、事務部長等12名で構成。

具体的取り組みとして、①分娩費用の価格体系刷新：マーケティング手法を応用した概算額の提示による新規利用者の心理的ハードルの低減。②情報発信力の強化：利用者アンケート調査結果を踏まえた産科ホームページの全面リニューアルとInstagram開設。③食事サービスの見直し：利用者満足度調査に基づくお祝い膳のアップグレードと給食委託業者との契約履行内容の見直し。④独自サービスの開発：地元人気店との提携による焼き菓子セットの提供。⑤一般不妊治療の導入。⑥産科医

師による連携先クリニックへの訪問を実施した。

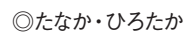
【実施期間】

2024年1月～現在

【考察・結果】

各取り組みにより段階的な改善効果が確認されている。分娩費用の価格体系の見直しによる利用者理解が促進され、Instagram開設では2025年10月現在で閲覧件数102,000件、281名のフォロワーを獲得し情報発信力が向上した。お祝い膳のリニューアルでは利用者から好評を得ており、地元人気店との提携企画についても今年9月から産後の利用者に焼き菓子セットの提供を開始している。2024年度分娩実績407件に対し、2025年度の分娩予約を含む合計数は549件を見込んでおり、社会医療法人の認可基準である500件の達成に向けて回復傾向を示している。

本取り組みは現在進行中であり、最終的な成果は今後の経過により左右される見込みであるが、現時点では各施策が相乗効果を発揮し、分娩件数も回復の兆しが見られている。継続的な取り組みの推進により、さらなる有効性が期待されている。



1978年生まれ。2006年、医療関連企業に入職し神奈川県内の複数医療機関でDPC請求・分析業務に従事。在職中に医療経営士を取得。2014年、ターンで長野県の公立病院に入職し、経営企画課にて新公立病院改革プラン策定に携わる。診療情報管理、地域連携、在宅診療の各部門も担当。2023年4月より現職。医療経営指導士